

## 日本における社会関連会計研究の態様に関する研究

### <研究共同代表>

大下勇二（法政大学） 坂上 学（法政大学）

### <部会メンバー>

東健太郎（立命館大学） 池田享誉（青森公立大学）

久持英司（青山学院大学） 村井秀樹（日本大学）

廣橋 祥（国際医療福祉大学）

### 1. 本研究部会の目的

社会関連会計研究は、近年盛んに研究がなされるようになってきている一方で、いわゆるトップ・ティアの研究誌における掲載数はあまり多いとはいえない状況がある。たとえばDeegan and Soltys (2007) は、オーストラリアにおける社会関連会計研究の状況について調査をおこなっているが、オーストラリアにおけるCSEARサマー・スクールやAPIRAカンファレンスの隆盛、博士課程学生の増大といった事実がある一方で、研究誌に掲載された論文数を見ると、これらの事実を必ずしも十分に反映していないことや、オーストラリアの主要ジャーナルの一つである *Accounting and Finance* 誌には、ほとんど社会関連会計研究の論文が掲載されないことなどが指摘されている。これらの状況は日本についても当てはまるのであろうか。また、これが意味することは何であろうか。

本研究では、日本における社会関連会計研究の態様を明らかにするとともに、国際的な観点から見てどれだけのプレゼンスを発揮できているのか、あるいは発揮できていないとすればその理由は何だろうか。これらを明らかにするため、本研究ではDeegan and Soltys (2007) に倣い、以下のような研究課題を設定し議論をおこなうことにした。

- 日本における社会関連会計研究は、何に焦点を当ててきたのか？
- 日本における社会関連会計研究の集中度（すなわち社会関連会計研究に携わる個々人の所属するグループは大きい小さいか）はどの程度か？
- 社会関連会計研究において、日本の会計研究者の内外におけるプレゼンスはどのような状況にあるのか？

以上の研究課題に答えるため、Bonner *et al.* (2006) の議論を踏まえ、さらに学術誌のインパクトファクターをはじめとするBibliometricsに関連する議論も交えて、日本の社会関連会計研究の実態を調査し、もし可能であれば社会ネットワーク分析の手法を用いて日本における社会関

連会計研究の態様を明らかにしたいと考えている。

## 2. 研究部会における議論について

本中間報告を行うまでに、以下の研究会をおこなった。それぞれの研究会での議論の概要は以下の通りである。

### (1) 第1回研究会（2010年3月15日 法政大学にて開催）

坂上共同代表より、本研究部会における研究の進め方についての説明がなされ、以下の手順で研究を進めることが確認された。

- 文献同士の関係に注目し、サンプル・ジャーナルの範囲を決定する。
- 「社会関連会計」研究の定義と分類方法について検討をおこなう。
- サンプル・ジャーナルに掲載されている「社会関連会計」論文のカウントをおこなう。

### (2) 第2回研究会（2010年5月28日 法政大学にて開催）

池田委員より、本研究の基本文献となるDeegan and Soltys (2007) の内容についての報告がおこなわれ、「社会関連会計」という領域の定義を明らかにすること、そして、調査の対象とすべきジャーナルおよび関連文献の範囲を確定すること、の2点について、まずは確定しなければならないことが明らかとなった。

続いて、廣橋委員よりBonner *et al.* (2006) の内容についての報告がおこなわれた。Bonner *et al.* (2006) では単純な出現数とその割合を捉えただけであり、その関係性についての視点が欠けている点が明らかになった。

最後に大下共同代表を中心に日本語文献資料の入手についての議論をおこない、久持委員からは、文献DVD-ROMの活用についての指摘があった。

### (3) 第3回研究会（2010年8月7日 札幌学院大学にて開催）

村井委員より、「インパクトファクターの誤用」に関する資料を基に、インパクトファクターの概要とその問題点について議論をおこなった。

## 3. 本研究部会の最終目標

以上の議論を踏まえ、当面は以下を目標として引き続き研究を進めていく予定である。

- 社会関連会計研究のコーパスを提示する。
- 社会関連会計研究の網羅的な文献データベースの構築。
- 各文献の関係について、より客観的な視点による分析手法を提示する。
- 日本における社会関連会計研究の態様について、その実態を明らかにする。

引用文献

- Bonner, S.E., Hesford, J.W., Van der Stede, W.A. and Young, S.M. (2006) "The most influential journals in academic accounting," *Accounting, Organizations and Society*, Vol. 31, No. 7, pp. 663-685.
- Deegan, C. and Soltys, S. (2007) "Social accounting research: An Australasian perspective," *Accounting Forum*, Vol. 31, pp. 73-89.